

菊川西中だより

校長室の窓

「水泳型」の教科と 「陸上競技型」の教科 どう学べば効果的?!



みなさんは競泳で黒人選手が活躍した記憶があるのでしょうか？私はありません。では黒人の人たちは運動能力に劣るのでしょうか？これは違いますね。オリンピックの陸上競技ではメダリストはすべて黒人選手とっていいくらいです。では、なぜ水泳で活躍する黒人選手がいないのでしょうか？私はこう考えます。

陸上で生活する私たち人間にとって「走る」という動作は日常生活の中に入っていて、特に練習しなくても「誰にでもできる動作」です。一方「泳ぐ」という動作は日常生活にはなく、すべての人は練習をしないと水に浮くことさえできません。そこでオリンピックの話です。残念ながら、欧米の先進国と呼ばれる国では黒人選手は人種差別のため白人選手と同じプールに入れなかった歴史があります。一方、発展途上国ではプール(特に年中泳げる温水プール)がありません。もちろん陸上競技でも「タータンの全天候型トラック」などは先進国にしかなかったでしょうが、**日常生活が、即練習になっている陸上競技では発展途上国の選手のハンディキャップはそれほど大きくありませんでした。**一方、温水プールで冬も泳げるようになって水泳の記録はとてつもない域に達しています。静岡県出身の水泳選手で「フジヤマノトビウオ」と呼ばれた故古橋広之進選手は**驚異的な世界新記録**を29回も連発しましたが、現在彼の記録ではオリンピックはおろか、小笠地区中学校水泳大会でも優勝できないレベルです。これでは**泳ぐプールが無いハンディキャップ**を背負った発展途上国の選手はなすすべも無いと考えます。

中学校で学ぶ教科でも、科学製品があふれている環境で、新聞やテレビで社会についてのニュースを見て生活している私たちにとって、理科、社会といった教科は、日常生活そのものが勉強になっている「陸上競技型の教科」です。しかし、数学や英語はどうでしょうか？私たちは**値段のわからない物について連立方程式を作り、それを解いてから買う**なんて事はしませんし、3週間ごとに来校するデービー先生と話すことくらいしか英語を使う機会はありません。数学や英語は、日常それを使う機会が少なく、練習しないと習得できない「水泳型の教科」といえます。

数学と英語でも**教科内容について興味関心を持つ事が一番大切**なのは言うまでもないことですが、**ある程度負荷をかけてやる練習**という作業がないと決して学習内容を身につける事はできません。数学と英語は、子どもたちに**頑張る練習することの大切さ**を教えてください。

一方理科と社会では「楽しさ」「不思議さ」を子どもたちにたっぷり味わわせることが数学、英語より大切になります。私は元々理科教員で物理が専門です。高校で物理を教えていた時「**物理は難しい数式がいっぱい出てきてさっぱりわからない。とても楽しいどころじゃない。**」という生徒にたくさん出会いました。実際上級学校へ進むにつれてどの教科も学習内容は実生活から離れていきます。それでも学び続けるためには中学校までに「学ぶ楽しさ」を知り、かつ、「がんばって練習する大切さ」の両方を知る必要があると思います。菊川西中学校で、学びの「楽しさ」と「厳しさ」の両方を子どもたちが体験できる授業ができれば良いと思います。

(文責 校長)